F-11

山形市中心市街地における都市づくりの変遷に関する研究
－三島通庸による官庁街形成からはじめて－
A Study on the Making of City in Yamagata City Center Area
－The Beginning for the Government Office Area by Michitsune Mishima－

○　後藤ゆかり[1],宇於崎勝也[2]
Yukari Goto　Katsuya Uozaki

In the 1878 Mr Michitsune Mishima was inducted into the first Yamagata governor. He was build the prefectureal office and,government office area, school and so on. At the same time, he developed the official residence and in Yamagata new urban district between 3 to 4 years. He retired Yamagata governor at 1882. I research on his achievement for six years.

１．研究の背景及び目的

1876(明治 9)年 8 月鶴岡県・置賜県が廃止され山形県と合併し大山形県の発足と同時に, その初代県令には鶴岡県令三島通庸(以下, 三島とする)が起用された. 三島は就任後すぐに旧山形城二の丸大手前にあった県庁舎を移転・新築した. さらに, 県師範学校, 県立病院済生館, 県警察本署, 山形警察署, 南村山郡役所, 県産業博物館, 勧業試験場, 水力機織場など次々と建設を命じ, 3～4 年の間に県都の中心街を形成した.

三島は 1882(明治 15)年に県令を退任した. その後福島県令, 栃木県令に就任したが, 彼の評判は必ずしも良かったとは言えない. 三島は福島, 栃木で自由民権運動を弾圧し, 住民の反対を押し切り, 強引に土木工事を行った. そのため「土木県令」,「鬼県令」と呼ばれるようになった. しかし山形県では, 三島の評判が良く,「ツウヨウ」の愛称で親しまれている. なぜ三島は山形での評判が良いのか, なかでも都市形成の面ではどうなのか. 三島が県令に在任していた 6 年間の業績を明らかにすることを目的とする.

2. 既往研究の整理と本研究の位置づけ

野中勝利の『三島通庸による明治初期の山形・官庁街建設における計画意図』(1)では, 三島が着任早々官庁街建設の意思決定ができたのは, 三島が就任する以前から県参事であった薄井龍之が, 官庁街建設を主導していたことを明らかにしている. また, 佐藤滋らの『三島通庸の城下町改造とその後の都市骨格の形成 - 山形と宇都宮を事例に - 』(2)では, 明治の初期に三島によって計画的な都心の改造が行われてきた城下町都市, 山形と宇都宮を事例とし, 山形での実績を宇都宮でも適用した手法を明らかにしている.

本研究では, 三島が山形県令に着任していた 6 年間の業績を明らかにする.

3. 研究方法

上記の目的を達成するため, 次のような手順, 方法をとる.

(1) 三島の人物像, 時代背景を整理する.

(2) 三島の業績を山形県史, 山形市史などの史資料をもとに調査をする.

(3) (2) から事業年表の作成と, 建設された施設のマッピングを行う.

なお, 中心市街地の位置について, 現在の山形市では山形駅前地区と七日町地区の二つの商業核を結ぶ「ロ」の字型に形成された商業・業務地を中心市街地と設定している. しかし, この範囲では本研究で対象とする三島が建設を命じた官庁街が含まれていないため, 昭文社発行の山形中心図(3)を分析対象範囲とする.

4. 三島通庸の業績

三島の最初の仕事は, 県政の象徴となる県庁舎を新築・移転することであった. 3 県統合前の小山形県は旧山形城二の丸大手前の水野家藩邸をそのまま県庁として使用していた. 三島は大山形県の行政庁舎としては狭すぎるため, 新たに敷地を探した. 初めは商業中心地である十日町・八日町方面を考えたが, 人家が密集して適地がなく, ついに七日町・旅篭町の中間に馬見ヶ崎川の旧流跡の万日河原に新官庁街を建設することを決断した.

万日河原は旧藩時代刑場などに使われていたこともあり, 専称寺別院覚成寺があり, また極楽地蔵尊などがあって俗に花立河原などとも呼ばれていた. ここを整地して県庁および県関係諸官庁を建設し, その東方一帯の荒地に官庁街を造成する構想であった. さらに, 官庁建設においては, そのころ山形県では見

１：日大理工・院(前)・不動産２：日大理工・教員・建築

られない洋風建築を採用した.

木造三層で時計台を備えた県庁舎をはじめとしてその前方, 七日町に至るまでの間に県師範学校, 県警察本署, 山形警察署, 南村山郡役所, 県産業博物館, 県営機械製糸工場などが次々と建設され, 3～4 年の間には東北はじめての洋風官庁街が出現し, 県都の中心部が形成された.

官庁街と並行して三島通り, 新築東通り, 中通り, 新築西通りの新路線を開き, 民家も立ち並び, ここにも新市街が出現した. また, 七日町角から東に向って長源寺, 法祥寺境内を貫き, 新路線を開いた. さらに, 旧本陣小清水庄蔵方の前の旅篭町曲がり角から, 9 間(16. 4 メートル)幅の主要道を北行させた(三島の原案では, 12 間の幅員であった).

イギリス人旅行家イザベラ・バードが 1878(明治 11)年に山形を訪れた際には,「県都でもある山形は, ちょっとした高台のよい立地にあり, それに加えて県庁が本通りの一番上というほかより抜きんでた位置にあるので, 日本の町としてはめずらしく引き立って見える. どの都会も郊外はとても貧弱で, 県庁の高くて白い新庁舎が低い灰色の家並みの上に見えるのにはとても驚いた. 山形の街路は広くてきれいである」[(4)]「政府の建物は相変わらずお菓子屋さんのような様式であるとはいえ, ベランダを足して改善されている. 県庁, 裁判所, 付属上級学校を備えた師範学校, 警察署の建物は, どれも立派な道路や見るからに裕福な町の雰囲気にふさわしい. 丸屋根のついた二階建ての大きな病院は 150 人の患者を収容できる予定で, また医学校になることになっているが, ほぼ完成している. 非常に設備がよく, 換気もとても良好である」[(5)]と三島の業績を賞賛している.

5. まとめ

三島が土木・建設として個別の業績を明らかにすることができた. しかし, これらの工事には, 費用の地元負担, 工事人夫の徴用などで, 住民の反対や不平があった. しかし, これを無視し, 強行する一方で三島は率先して工事に参加し, 陣頭指揮をするという一面があった.

そのため, 三島は住民をまとめあげ, これらの大工事を短期間の間にやり遂げられたと評価できる.

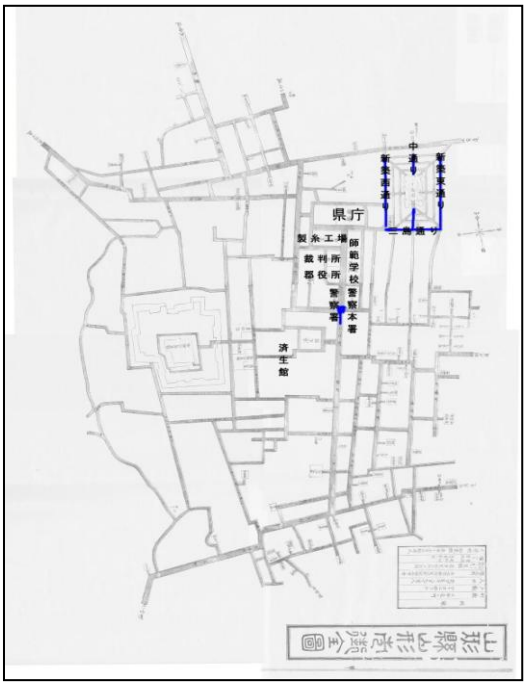

Figure1.Map of the Government office Area by Michitsune Mishima(1881)

6. 引用文献・参考文献

(1)野中勝利「三島通庸による明治初期の山形・官庁街における計画意図」日本建築学会計画系論文集　第 589 号 2005 年

(2)佐藤滋/野中勝利「三島通庸の城下町改造とその後の都市骨格の形成　- 山形と宇都宮を事例に - 」日本都市計画学会学術研究論文集　第 28 号 1993 年

(3)山形県山形市街全図(明治 14 年)　国立国会図書館所蔵

(4)イザベラ・バード　時岡敬子訳『イザベラ・バードの日本紀行(上)』講談社学術文庫　2008 年　pp. 330

(5) イザベラ・バード　時岡敬子訳『イザベラ・バードの日本紀行(上)』講談社学術文庫　2008 年　pp. 331

(6)後藤嘉一著『山形商工会議所史 上巻』1972 年

(7)山形県『山形県史第四巻』1984 年

(8)山形市『山形市史　中巻　近世編　付図 3』1971 年

(9)山形市『山形市史　下巻　近代編』1975 年

(10)北原聡『明治前期における交通インフラストラクチュアの形成 - 山形県における三島通庸 - 』三田学会雑誌 90 巻 1 号　1997 年

(11)幕内満雄著『評伝三島通庸　明治新政府で辣腕を振るった内務官僚』　暁印書館　2010 年

(12)国土計画協会『人と国土/国土計画協会編　特集歴史に学ぶ国土政策』　1997 年

(13)渋谷光夫『イザベラ・バードの山形路　「アルカディア街道」散策のススメ』無明舎出版　2011 年